

無案保育

私が平常説いておりますところが、従来の保育案に対して時々反対を試みたりするものですから、我々の考え方は、全然保育案なしで、幼稚園をやっていくこと、これを仮に無案保育説（わざと大げさに申している）としてみても可い。これを仮に無案保育説（わざと大げさに申して）としてみても可い。しかし、全然何等の心構え、すなわち計画的、あるいは立案なしでやっていく者が、全然何等の心構え、すなわちそういうことが出来たとするならば、それは天狗さまのすることかあるいは責任を感じないその日暮しの日雇い人足のことでしょう。天狗さまでもなく日雇い人足でない私たちが、日々の保育案を立てるといふこと、そのことについて、決して反対するものではない。もし、もし非常にほうらつな自由主義（主義でもなんでもありません）の人がありまして、いきあたりばったりで毎日の幼稚園を暮している人があり、それが新しい保育でもあるというように、自分からでもいわれることがあったとしましたならば、これは、無責任主義（？）です。幼稚園保育をこいっしょに考えるに足るなま同志ではありません。

（倉橋惣三選集 第一巻 幼稚園真諦より）